

= 支部だより =

北海道支部

北海道支部活動報告

北海道支部では、総会・理事会・評議員会・研究発表会を、2 日間にわたって同時開催しました。

2012 年度北海道支部総会

支部総会では、昨年度の事業報告・会計報告、今年度の事業計画案・収支予算案について審議され、2012 年度の新しい役員が選出されました。

1. 開催日時：2012 年 5 月 18 日（金）
10:00～10:30
2. 開催場所：北海道大学百年記念会館大会議室
3. 出席者：30 名
4. 議 事
 - (1) 2011 年度事業報告・収支決算報告
 - (2) 2012 年度事業計画案・収支予算案
 - (3) 2012 年度支部役員について
5. 審 議

議長として油川英明会員が選出され、高橋支部長からの挨拶に続いて審議がなされた。

(1) 2011 年度事業報告・収支決算報告

白岩副支部長より、資料 1 に基づき 2011 年度事業報告が説明され、異議無く承認された。つぎに、丹治会計担当理事より、資料 2 に基づき 2011 年度収支決算報告が説明され、異議無く承認された。小林監事より 2011 年度の収支計算書、財産目録を監査した結果、正確妥当であること、支部事業についても 2011 年度事業報告の通り、適正に実施されたとの監査報告がなされた。

(2) 2012 年度事業計画案・収支予算案

白岩副支部長より、資料 3 に基づき 2012 年度事業計画案の説明があり、異議無く原案通り承認された。つぎに、丹治会計担当理事より、資料 4 に基づき、2012 年度収支予算案を説明した。審議の結果、異議無く原案通り承認された。

(3) 2012 年度支部役員について

2012 年度の理事・監事について、会場に推薦が

求められた。さらに、白岩副支部長より事務局案が示され、異議無く承認された。

6. その他

事務局および出席者から特段の発議はなく、総会は閉会された。

7. 配布資料

- ・議事次第
- ・資料 1：2011 年度事業報告
- ・資料 2：2011 年度収支決算報告
- ・資料 3：2012 年度事業計画（案）
- ・資料 4：2012 年度収支予算（案）

当日の配布資料、議事録は北海道支部 HP にて閲覧頂けます (<http://www.seppy.org/hokkaido/Report/assembly/2012>)。どうぞご利用下さい。

2012 年度北海道支部役員は、以下のとおりです。

支部長：高橋修平（北見工業大学）

副支部長：金田安弘（北海道開発技術センター）、

白岩孝行（北海道大学）

理事：高橋尚人（土木研究所・寒地土木研究所）、永田泰浩（北海道開発技術センター）、丹治和博（日本気象協会）、内田 努（北海道大学）、的場澄人（北海道大学）、斉藤佳彦（雪研スノーイーターズ）、千葉隆弘（北海道工業大学）、舘山一孝（北見工業大学）、細川和彦（北海道工業大学）、久保雅弘（北海道電力）、伊東敏幸（北海道工業大学）、大鐘卓哉（小樽市総合博物館）、高橋章弘（北方建築総合研究所）、山野井克己（森林総合研究所）、井上聡（北海道農業研究センター）、苫米地司（北海道工業大学）、古川義純（北海道大学）

監事：小林利章（日本気象協会）、藤井雅晴（札幌総合情報センター）

2012 年度北海道支部評議員会

2012 年度第 1 回理事会（支部総会後開催）で承

認された評議員に、支部運営に関する提言を頂きました。主な提言として、雪氷災害調査チームのとりまとめた「2010 年 1 月 17 日北海道石狩地方の局地的大雪に関する報告書」に対する認知度を高めていく方法の一つとして、気象学会等の関連学会等での発表の機会を得ることも考えられるという提言がありました。

2012 年度北海道支部研究発表会

2012 年度の支部研究発表会が、以下の要領で開催されました。広い研究分野から、昨年より 10 件多い 49 件の口頭発表があり、終日にわたって熱心な討論がなされました。発表内容は論文化され、今秋発行予定の「北海道の雪氷」第 31 号に掲載される予定です。

1. 開催日時：2012 年 5 月 18 日（金）
13:00~18:00
2012 年 5 月 19 日（土）
9:30~16:40
2. 開催場所：北海道大学百年記念会館大会議室
(5 月 18 日)
北海道大学学術交流会館 小講堂
(5 月 19 日)
3. 出席者：136 名
4. 北海道雪氷賞（北の風花賞）表彰式
5/15（日）13:00~13:15
受賞者および論文
小西信義（北海道大学大学院文学研究科）
論文名「豪雪過疎地域の除排雪における自助互助に関する人類学的研究」
千葉隆弘（北海道工業大学）
論文名「構造部材における着雪性状に関する研究」
5. 発表プログラム

Session I（除雪・教育・気象）：5/18（金）
13:15-14:27

豪雪過疎地域の除排雪における自助互助に関する人類学的研究Ⅱ，小西信義（北海道大学大学院文学研究科）

北海道の高齢者の生活機能評価指標としてのショベリング投擲力，須田 力（北方圏体育・スポーツ研究会）他

雪害予報技術の開発に関する研究－除雪行動お

よび生活情報の取得に関するアンケート結果－，細川和彦（北海道工業大学）他

過冷却海水の凍結実験，平松和彦（福山市立大学）他

「氷のラボ」での多様な雪氷体験－産官学連携で行った雪と氷の価値化－，中村一樹（北海道大学大学院地球環境科学研究院）他

北見・陸別地域における気温逆転現象の分布と傾向，佐々木孝（北見工業大学大学院）他

Session II（積雪）：5/18（金）14:42-16:18

降霰と融雪が重なって生じる融雪出水－雪面上への模擬降霰散水実験－，石井吉之（北海道大学低温科学研究所）他

0.12T コンパクト MRI による積雪の水分特性曲線の計測，安達聖（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）他

手動ボーリング器を用いた積雪内部の観察，日下 稜（北見工業大学大学院）他

航空レーザ測量を活用した森林内における積雪深分布と地形の関係に関する考察，西原照雅（寒地土木研究所）他

ガス吸着法による積雪比表面積測定装置の開発，八久保晶弘（北見工業大学）他

陸別町におけるしもざらめ雪の密度と剪断強度の関係について，横山博之（寒地土木研究所・北見工業大学大学院）他

近年の羊ヶ丘の積雪の特徴，井上 聡（北海道農業研究センター）他

風洞型表面霜作製装置の開発，津田将史（北海道教育大学札幌校）他

Session III（防雪林・道路）：5/18（金）

16:33-17:57

2011/12 年の大雪による樹木被害のいろいろ，斎藤新一郎（北海道開発技術センター）他

樹幹解析から見た防雪林造成におけるコスト移植の問題点と改良手法，阿部正明（北海道開発技術センター）他

光学式路面凍結検知システムの開発と 2012 年道東地域の路面観測，Nuerasimuguli Arimasi（北見工業大学大学院）他

非接触式すべり抵抗計測装置の冬期路面管理へ

の適用性に関する研究, 切石 亮 (寒地土木研究所) 他

「そろばん道路」の発生に関する考察, 永田泰浩 (北海道開発技術センター) 他

低温時における凍結防止剤散布に関する試験研究, 川端優一 (寒地土木研究所) 他

レーザースキャナーを用いた冬期道路有効幅員の計測について, 大上哲也 (寒地土木研究所) 他

SessionIV (氷河・雪結晶 雪結晶): 5/19 (土)
9:30-10:54

南極ラングホブデ氷河における熱水掘削, 杉山 慎 (北海道大学低温科学研究所) 他

南極ラングホブデ氷河における熱水掘削孔を用いたバイオ観察, 澤柿教伸 (北海道大学地球環境科学研究院) 他

南極ラングホブデ氷河における表面流動速度測定と氷厚探査, 福田武博 (北海道大学大学院環境科学院) 他

南パタゴニア氷原におけるカービング氷河の変動と流速の関係, 榊原大貴 (北海道大学大学院環境科学院) 他

雪結晶のグローバル分類における CP6 (散晶状結晶) ~ CP9 (鷗晶状結晶), 菊地勝弘 (北海道大学名誉教授)

車載方式による雪結晶の顕微鏡写真撮影, 油川英明 (NPO 法人雪氷ネットワーク)

-50°C 以下で生成される放射状針状結晶の特徴, 原田康浩 (北見工業大学) 他

SessionV (2011-2012 年豪雪): 5/19 (土)
11:09~12:33

2011-2012 年冬期に北海道岩見沢市を中心として発生した大雪について (その 1) 一大雪の概要と気象の特徴一, 金田安弘 (北海道開発技術センター) 他

2011-2012 年冬期に北海道岩見沢市を中心として発生した大雪について (その 2) 一大雪災害の被害一, 堤 拓哉 (北方建築総合研究所) 他

2011-2012 年冬期に北海道岩見沢市を中心として発生した大雪について (その 3) 一空知・石狩の積雪調査一, 尾関俊浩 (北海道教育大学) 他

2011-2012 年冬期に北海道岩見沢市を中心とし

て発生した大雪について (その 4) 一広域積雪調査一, 白川龍生 (北見工業大学) 他

北海道における平成 23 年冬期の最大積雪深の確率年と大雪事例について, 原田裕介 (寒地土木研究所) 他

2012 年空知地方などの豪雪とその化学成分, 野口 泉 (環境科学研究センター) 他

2012 年 2 月大雪時における一般国道 12 号岩見沢市での路面すべり抵抗調査報告, 高橋尚人 (寒地土木研究所) 他

SessionVI (屋根雪・氷瀑・氷筈・雪崩): 5/19 (土)
13:33-14:57

建物の断熱性能の違いが屋根積雪性状に与える影響, 阿部祐平 (北方建築総合研究所) 他

2011 年冬期における岩見沢および三笠の屋根上積雪状態, 伊東敏幸 (北海道工業大学) 他

氷瀑の形成に関する観測 (2), 東海林明雄 (湖沼雪氷研究所) 他

小樽軟石採石場で確認された氷筈の報告一その 1一, 大鐘卓哉 (小樽市総合博物館)

雪崩予防柵の野外模型予備実験, 佐々木勝男 (北海道工業大学) 他

乾雪表層雪崩の点発生と面発生を分ける条件, 竹内政夫 (雪氷ネットワーク) 他

勾配の小さい斜面における雪崩予防柵の列間斜距離と雪圧との関係について, 松下拓樹 (寒地土木研究所) 他

SessionVII (河川・吹雪・着雪): 5/19 (土)
15:12-16:36

北海道東部太平洋沿岸の水結河川における津波の痕跡調査, 宮本修司 (寒地土木研究所) 他

建築物の配置が吹きだまりの形成状況に及ぼす影響について, 畠山真直 (北海道工業大学大学院) 他

道路構造と吹きだまり発達速度の関係に関する実験, 渡邊崇史 (寒地土木研究所) 他

吹雪時の大気電場強度の鉛直分布に関する考察, 大宮 哲 (北海道大学低温科学研究所) 他

吹雪の構造, 竹内政夫 (雪氷ネットワーク)

吹払式防雪柵の下部間隙閉塞と防雪機能の関係について一縮尺模型を用いた風洞実験による検討一,



図 1 北海道雪氷賞（北の風花賞）表彰式の様子



図 2 136 名が参加し盛況だった研究発表会



図 3 懇親会での集合写真（於：北海道大学ファカルティハウス・エンレイソウ）



図 4 受賞した小西信義会員（左）、千葉隆弘会員（中）および高橋支部長（右）

山崎貴志（寒地土木研究所）他

単純形状をした建築部材への着雪性状に関する実験的研究，千葉隆弘（北海道工業大学）他

以上の発表プログラムと要旨はこちらでご覧になれます（<http://www.seppyo.org/hokkaido/Report/conference/2012>）。

5/18（金）研究発表会終了後に、31名の参加のもと立食形式の懇親会が行われました。北海道雪氷賞受賞者、研究発表者、他地区参加者等にスピーチを頂き、親交を深めました。

北海道雪氷賞について

若手研究者や実務者の活発な学会参加や、幅広い研究分野との連携・融合による研究分野の拡大

を促すことで、北海道支部の活性化や社会貢献への寄与を推進することを目的に、2011年に「北海道雪氷賞（愛称：北の風花賞）」を設立しました。栄えある受賞者2名に、コメントを頂きました。

第二回北海道雪氷賞を頂戴できたこと大変光栄に思います。スコープの握り方から教えてくれた美流渡の雪はねの師への感謝だけではなく、人文科学の人間をも受け入れてくれる北海道支部の懐の深さに感謝致します。雪氷分野に新たな視座を提供できるよう、ひとつでも多くの雪害を減らせるよう、今後もスコープを握り続けます！

（小西信義）

この度は、栄えある北海道雪氷賞を頂き、あり

がとうございました。現在、建築物への着雪に関する共同研究という形で進めており、私はその代表として受賞したものと考えております。雪の少ない関東地方でも着雪や落雪の問題が表面

化しているので、その対策に資するためのデータ整備を早急に進めたいと思っております。

(千葉隆弘)

北海道支部機関誌「北海道の雪氷」発刊のご案内

2012 年度北海道支部研究発表会での発表論文を掲載した「北海道の雪氷」第 31 号が今秋出版予定です。「北海道の雪氷」は、北海道支部ホームページ上にて閲覧可能です。冊子体をご希望の方は有料で配布しますので支部ホームページの注文サイトから申込みをお願いします。「北海道の雪

氷」に関する Web サイトは、下記のとおりです (<http://www.seppyo.org/hokkaido/publications/journal/jcontents>)。

((独) 土木研究所 寒地土木研究所 高橋尚人)

(2012 年 6 月 22 日受付)

東北支部

東北支部大会の開催報告

2012 年度の東北支部大会(理事会, 総会, 授賞式, 特別講演会, 研究発表会)が 2012 年 5 月 18 日(金)・19 日(土)の両日にわたって、八戸工業大学(八戸市大字妙字大開 88-1)で開催され、会員を中心に延べ 30 名程が参加し、25 件の研究発

表と特別講演会が行われた(図 1)。なお、今大会は日本雪工学会北東北支部と合同で行われた。

特別講演会では、八戸工業大学大学院工学研究科土木工学専攻の金子賢治准教授から「3.11 震災における地盤と補強土の被害について」と題し、



図 1 研究発表会の様子(撮影: 根本征樹)